

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念『忠恕の心』を念頭に、誠意と思いやりを持って接している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員の辞令交付式では、理事長より必ず理念についての説明を受け、共有するようにしている。 ・ホーム内に理念を掲示し、いつも目にしながら業務にあたっている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・法人全体のパンフレットを活用したり、運営推進会議等で話したりしながら、理解をしてもらえるよう取り組んでいる。	・グループホームだよりの発行
2. 地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・地理的に隣近所との付き合いは難しいが、受診や買い物の際、地域の人達と挨拶を交わしたり話しをしたりする。 ・たまに野菜の差し入れがある。 ・七戸町内の様々なイベントを見学したり、参加したりして、地域の方々との交流につなげている。 ・行事の際、ボランティア活動の受け入れを行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・全職員で自己評価を行い、業務の点検を行っている。</p> <p>・外部評価で指摘された点などは、会議で報告し改善できるよう努めている。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2ヶ月に1回開催し、事業計画・近況報告・行事のお知らせ等を行い、意見や情報をもらうようにしている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・介護相談員が月1回来訪し、利用者本人・職員から現状等を聞き取っている。その結果を基に、サービス向上に取り組む努力をしている。</p> <p>・行事の際等には、役場の協力を得ている。(テント・テーブルの借用、駐車場・見学場所の確保等)</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・勉強会にて使用した資料をいつでも閲覧できるように綴って置き、必要時には活用できるようにしている。</p>	<p>・年1回は勉強会を開き、理解を深めるようにする。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待が見過ごされていないか、お互いに声掛け・態度・対応について注意し合っている。</p>	<p>・他事業所での事件が報道された際は、ミーティングで話題にし、再び自らの対応を振り返り注意するように努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、重要事項説明書に基づいて丁寧に説明を行い、理解・同意を得ている。	
11	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・介護相談員が月1回来訪し、利用者からの聞き取った内容を報告してもらっている。 ・不満・苦情があった場合は、苦情・相談ノートを活用したり、申し送りや会議にて全職員で把握・相談し合い、改善に向け取り組んでいる。	
12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、担当職員より手紙を通して、先月の様子を報告している。(金銭管理は小遣い長のコピーを家族へ送付している) ・必要があれば随時電話連絡したり、面会時には近頃の様子を伝えたりしている。	
13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・2ヶ月に1回の運営推進会議の開催や、家族交流会の開催で、家族・関係機関からの要望・助言を受けたり、また、アンケートにも回答してもらったりし、サービスの質の向上・確保を図っている。	・ご意見箱を設置し、意見等を入れてもらうようにする。
14	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ケース会議・個人面談・日々の相談等の中で意見交換を行い、業務への反映に努めている。	
15	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・24時間365日、利用者を支えられるローテーションに取り組んでいる。 ・夜間帯、待機者を一人控えておき、緊急時の調整に備えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動がある時は早めに準備・申し送り等行い、今迄と変わらないケアが出来るように努めている。利用者にもその旨説明している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内の新人研修や4年目研修等を行い、段階に応じて職員の育成に、また、勉強会に参加する等し職員の資質向上に努めている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・事例研究検討会(研修)を通して、他施設職員と共に意見交換をし、ケアの向上に向けた取り組みを行っている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員親睦会に参加したり、年に数回の面接を通じて悩み等を伝えている。 ・第三者経由で悩んでいる事を知った時には、話を聞く等のサポート体制をとっている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・法人独自の自己評価表を用いて、運営管理会議メンバーでの評価や面接を行い、目標を持って業務をこなせるように取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>・担当ケアマネからの情報収集や事前面談により、本人の希望も含めて状態把握に努めている。その際、家族等関係者の思いや希望を受け、安心して入居できるように努めている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>・相談時、現状や本人・家族の思いを受け止め、柔軟な対応を行っている。場合によっては、必要なサービスにつなげる橋渡しをしている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>・入居前の見学受け入れや、入居の際のなじみの品当の持込の受け入れをしている。</p> <p>・生活歴チェック表を活用し、趣味や特技を引き出したり、モニタリング・ケアプランを通して職員が情報を共有する事で、その人らしい生活が送れるように努めている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>・生活歴・昔話・戦争体験等を通して、利用者からも学びながら、お互いに支え合う関係作りに努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・月1回の手紙にて近況を伝えたり、電話連絡や面会時の会話を通して、家族の信頼関係を築く努力をしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者の近況状況をこまめに伝えたり、行事に家族をお誘いしたり、面会等で利用者と家族の関わり合いが持てるように働きかけている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前からの行きつけの理容院へ継続して通っていたり、寺へ参拝に出掛けたりし、これまでの生活を尊重できるようにしている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・食事やおやつを一緒に摂ったり、レクリエーション活動等、職員が間に入りコミュニケーションを図ることで、利用者同士楽しく会話できる機会・雰囲気作りに努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・長期入院等でサービス利用を終了した方へも、その後の様子伺いを時々行い付き合いを大切にしている。 ・以前利用していた方が亡くなった場合は、通夜または葬儀に参列している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・日々の関わりの中で、表情・行動・会話の中から本人の思いや意向をくみ取るようにしている。困難な場合は、生活歴シートや家族・関係者からの情報を得ながら検討している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時に、本人・家族・関係者から聞き、生活歴の把握に努めている。また、ケア会議時には、新利用者の生活歴について情報を共有している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・言動やケース記録を基に生活リズムをつかみ、良い点を見出し支援している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・現在本人に必要な事、何を援助すべきかを本人・家族と話し合い作成している。</p> <p>・アセスメントを含め、職員間でモニタリングを行ったり、ケース会議にて意見を出し合ったりしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・6ヶ月毎の見直しを基本とし、その間に変更が必要と思われたニーズは、モニタリングや状況に応じ、本人・家族・関係者と話し合ったりした上で新たに作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・利用者個々の記録を行ない、本人の行動・言動等を把握し、職員間で共有するように努め、ケアプランに活かせるようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者や家族の状況に応じた通院付き添いや送迎・買い物やお出掛け等も含め、柔軟に対応できるように努めている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・ボランティアの協力を依頼したり、地域住民協力のもと、防災訓練を実施したりしている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・必要な際には事業所と連絡を取り合い、利用者にとって最善な方向付けができるように努めている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・運営推進会議で問題を提起して頂き、検討してもらっている。また、周辺の情報や支援に関する情報交換を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者のかかりつけ医を入居後もなるべく変更していない。更に、嘱託医による2週間に1回の回診にて、異常の早期発見・早期対応ができるよう努めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医が地域にいないものの、協力医療機関の助言をもらって支援している。		
42 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・隣接している施設の看護師の協力のもと、利用者の状態の様子伺いを行い、必要時は助言・対応などしている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・これ迄の経過・ADL(日常生活動作)・既往歴・服薬状況等の情報提供を行ったり、様子伺いと共に状態観察するようにし、退院に向けた準備・方向付けに努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・かかりつけ医・家族・居宅ケアマネや施設関係者等と連絡を取り合い、早い段階から方向付けについて検討している。また、それらを申し送りや会議等の場で共有するようにしている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・隣接している施設看護師からの助言やかかりつけ医との連携を通し、今後の変化に備えている。 ・終末期に向けた支援は、準備していない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・担当者への情報提供を行い、利用者が混乱せず過ごせるように努めている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・目立たないさりげない声掛けやジェスチャーにて伝えたり、着衣の乱れは人目にふれない所で直す等の対応をしている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・選択肢を用意し、本人のわかる力に合わせて選択してもらい、納得してもらえるように努めている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日のスケジュールに沿いながらではあるが、時間を見つけて利用者の状態や思いに配慮し、柔軟に対応できるように努めている。(散歩・ドライブ)		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・希望によっては職員の付き添いにて、理容院へ外出している。その他は、隣接している施設に月1回来訪する理容組合の方に、本人の希望を受けて散髪してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者個々の好みや量を把握し、毎日のメニュー作りに活かしている。 ・食材の下ごしらえ・茶わん拭き等、手伝って頂いている。 ・昼食は、職員も(持参の弁当で)一緒に摂っている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・行事の際、酒好きの利用者へは適量のアルコールを提供している。 ・利用者個々の病気・嗜好物を把握し、本人の様子や時間を見ながら、できる限り本人の要望に応じられるようにしている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表を活用し、排泄リズムをつかめるようにすると共に、介助が必要な利用者でも、できる限りトイレで排泄できるように支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日・時間帯は決まっているが、入りたい等の希望がある際には、なるべく臨機応変に対応するようにしている。 ・水虫のある方は、入浴日以外にも足浴を行い、再発防止に努めている。 ・入浴拒否者には、声掛け・タイミング等を工夫し対応している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・利用者の体調を考慮しながら、軽作業・運動等の一日の流れの中に取り入れ、適度な疲れから入眠できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活の中で、役割や張り合いを感じてもらえるよう、利用者の能力に応じた仕事の手伝い(テーブル拭き・茶わん拭き・食材の下ごしらえ・苗植え・水やり)編み物・行事参加を含めて、利用者と一緒に相談しながら行っている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理したい利用者は、お小遣いとして所持してもらっているが、家族・本人の間で相談・報告し合い、トラブルの回避に努めている。		・外出や買い物の際に、家族から預かっているお金を本人に渡し、自分自身で払って頂く工夫をしながら、社会性の維持につなげていきたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候や本人の気分・状況に応じて、随時散歩・ドライブ・お出掛け・ショッピング等実施し、気分転換や心身の活性化につながるよう努めている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・一時帰宅や遠出したい希望があるときは、家族の協力を依頼したり、実現へ向けて職員が検討し支援につなげている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば、できる限り応じている。 ・事務室の電話や、居室で子機を利用したりして他利用者に会話が聞こえないように工夫している。 ・年賀状は本人よりメッセージをかいてもらい、家族に出している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時にはお茶を出したり、気軽に来て頂けるような雰囲気作りや対応を心掛けている。 ・面会時間は21時迄としているが、仕事帰りや都合の良い時間帯に、いつでも来訪して頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしない事が基本であり、勉強会を実施し、職員間で理解を深めている。		・時々、職員間で確認しあって、共有認識を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・一人で玄関前へ出られる利用者には、声を掛けてもらったり、外に出たそうにしているのに気付いた時は、さりげない声掛けや一緒に出たりと、安全にも注意していくようにしている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・在所確認表を活用しながら、朝・昼・晩の所在や様子を確認できるようにしている。(夜間は一時間毎の見回りを行っている)		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個々の管理能力を見極め、本人・家族から理解を得たうえで、職員で預らせてもらったり、本人に任せたりする等工夫をしている。 ・包丁・洗剤は、夜間鍵のかかる場所に保管している。(他の洗剤等も、常時鍵のかかる場所で保管している)		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・介護事故発生・再発防止委員会での話し合いや、事故防止の為にの対策を考え、取り組んでいる。 ・アクシデントシートを通じて、リスクの把握に努め、職員間の共有認識を図り、ケース会議時には、事故の原因・改善策の見直しを再度行っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年一回は、応急手当・初期対応についての勉強会で覚えるようにしている。 ・3年に一回、消防署での講習会にも参加して、対応できるように努めている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防火管理者立会いのもと、2ヶ月に1回非難訓練を実施している。 ・年一回近隣住民も参加し、法人全体の訓練も行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>・下剤に頼りすぎている為、食材・運動面にもっと力を入れ、改善していきたい。</p>
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、感染症防止対策委員会が中心となり、勉強会を開催し、予防・対策に努めている。 ・排泄物・吐物・出血時の処理は、必ず手袋を使用し、ハイター消毒を行っている。 ・職員・利用者共に、手洗い・手指消毒を徹底している。 ・エプロンを、調理用と掃除用に分けて使用している。 		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・まな板・布巾・包丁等は、毎晩ハイター消毒・熱湯消毒し、台所周りの清潔に努めている。 ・冷蔵庫内の食材の鮮度・賞味期限のチェックを行い、買い物は1日置きにし、買いためしないようにしている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気のある玄関になるように、花や野菜のプランター・植木を置く等し、演出に努めている。 		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花を飾ったり、季節に合わせた創作活動を利用者の協力を得て行い、それを飾ったりする事で心地良い場になるよう努めている。 		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下にベンチがある為、仲の良い利用者同士が座ってくつろぎ、会話している。 ・小あがりでは冬場にこたつを設置し、利用者・職員でくつろいだりし、スペースを活用している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>・脱衣室内・小あがりに手すりが欲しいが、その人に合った安全な介助に努めている。</p>
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>・プレイルームを活用し、誕生会・行事・レクリエーションを行う等、活かせるようにしている。 ・デッキに椅子を出し、日なたぼっこ等している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、理念の『忠恕の心』を念頭に、誠意と思いやりをもって接し、一人ひとりのその人らしさの実現に向けて支援しています。また、建物は緑に囲まれている為、夏場は鳥のさえずり・セミの鳴き声を聞きながら、木々でも四季を体感しています。

6月～10月の間は毎月1回バーベキューを行い、利用者を楽しんでもらえるようにしています。